

環境を守るエキスパートを目指す。

して広い視野を持ちながらも専門分野を深く極めた人材を送り出していきたいと考えています。

本研究科は、持続可能でよりよい社会を築くための人材として、地球環境科学分野における「モラリスト×エキスパート」を養成することを教育目標としています。その実現のために、地球環境科学と地球・地域の環境問題に関心を持ち、その解決に意欲を持っている方、また、入学後の学びに必要となる基礎学力と関連分野に関する知識を持っている方の入学をお待ちしています。入学後は全学的な奨学金制度の他に、論文投稿等助成制度、学会発表交通費補助、研究費補助制度などの研究科独自の経済的支援を受けることもできます。地球環境科学は今でも発展中の若い学問であり、確立した唯一の学問体系があるわけではありません。入学された方々には、それぞれの専攻の各専門分野に軸足を置きながらも、狭い分野に閉じこもることなく、周辺分野も取り込んだ新たな学問体系を作っていくくらいの気概を持って取り組んでくれることを期待します。

地理空間システム学専攻

Graduate Course in Geographical Space Systems

人文地理学・自然地理学・地理教育・地理情報科学の各分野から構成される地理学系の専攻です。人文地理学分野は、総合的な視点から地域の実態をとらえ、地域社会への貢献を目指しています。自然地理学研究分野は地形・水文・気候等の側面から地域環境の諸相をとらえます。地理教育と地理情報科学の各分野は、地図・地理空間情報・衛星画像処理等に関わる高度な技能習得と、教育現場への効果的な導入方法を学んでいきます。

人文地理学研究分野

自然地理学研究分野

地理教育研究分野

地理情報科学研究分野

博士後期課程 **定員3名**

博士前期(修士)課程 **定員8名**

学位	博士後期課程	博士前期(修士)課程
	博士(地理学)	修士(地理学)
論文例	<ul style="list-style-type: none"> 伝統的陶磁器業の地域的存立基盤に関する地理学的研究 日本における生シタケ産地の形成と変容 東北地方における港湾の外国貿易機能の変容と後背地との関係 中国内モンゴル自治区赤峰市におけるモンゴル民族と漢民族の共存形態の地域的差異 ソ連・ロシアにおける工業の地域的展開一併体制転換と移行期の工業立地変動一 日本における醤油醸造業地域の形成と地方産地の存立形態 地域医療計画策定手法の開発と検証 三宅島火山災害に対する行政機関の対応行動に関する地理学的研究 関東地方における野菜生産地域の統合と分化の過程 	<ul style="list-style-type: none"> 鬼怒川中流域左岸の若宮戸から水海道の区間に見られる微高地の形態 高度経済成長期以降の熊谷駅を中心とした乗合バス路線網の変容 都市観光地における言語環境の特徴一東京都台東区浅草地区を事例として一 多摩川中流域における都市化地域の地域用水システム 降雨によって発生する大規模崩壊の特徴一埼玉県飯能市大高山を例に一 東アジアにおける気団と前線帯が南西諸島の冬季気候に及ぼす影響 地理教育における地理空間情報の活用と教材開発 妙正寺川流域の開発と土地利用の変化過程一住宅地形成の視点から一
進路	<ul style="list-style-type: none"> 立正大学地球環境科学部 沖縄国際大学経済学部 大阪産業大学人間環境学部 鹿児島県立短期大学商経学部 厚生労働省福岡検疫所 中国 浙江林業大学 (一財)日本地図センター 水城高等学校教諭(茨城県) 	<ul style="list-style-type: none"> 立正大学大学院、中国・南京郵電大学、跡見女子学園中学校・高校教諭、和洋九段女子高校教諭、富士見中学校・高校教諭、鹿児島県立高校教諭、秋田県立高校教諭、栃木県庁、長井市役所、上尾市役所、東武トップツアーズ(株)、東京カートグラフィック(株)、横浜市立小学校教諭、東京都立小学校教諭(株)読売旅行、国立青少年教育振興機構、島原半島ジオパーク協議会

2023年度 入試要項

博士前期(修士)課程のA日程入試に推薦入試が導入されています。

学内外を対象とした推薦型の入試制度です。

詳細は大学院学生募集要項もしくは入試説明会でご確認ください。

募集人員

- 博士後期課程
 - 環境システム学専攻 定員4名
 - 地理空間システム学専攻 定員3名
- 博士前期(修士)課程
 - 環境システム学専攻 定員10名
 - 地理空間システム学専攻 定員8名

入試区分

- 一般入試
- 推薦入試
- 社会人入試
- 外国人留学生入試

出願資格

大学院学生募集要項を参照してください。

受験料

35,000円

大学院学生募集要項請求先

立正大学入試情報サイトからダウンロードしてください。



出願期間および試験日・試験場

出願期間
 A日程:2022年 7月1日(金)~7月11日(月)
 C日程:2023年 1月12日(木)~1月25日(水)
 いずれも必着(B日程は実施しません)

試験日
 A日程:2022年 7月17日(日)
 C日程:2023年 2月11日(土)

試験場
 立正大学熊谷キャンパス
 アカデミックキューブ(19号館)内
 〒360-0194
 埼玉県熊谷市万吉1700
 TEL:048-539-1630(直通)

新型コロナウイルス感染症の影響により、学生募集要項の掲載内容を変更する場合があります。変更が生じた際は、入試情報サイトにて随時公表いたします。

出願にあたっては、必ず入試情報サイトおよび学生募集要項にて最新情報をご確認ください。

●入試情報サイトURL : http://www.ris.ac.jp/examination_information/

立正大学大学院 地球環境科学研究科

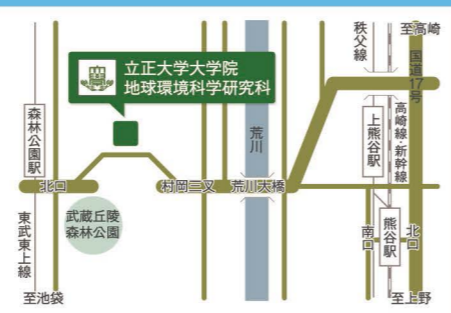
〒360-0194 埼玉県熊谷市万吉1700
 TEL 048-539-1630
 FAX 048-539-1632
 E-mail geo@ris.ac.jp

2023年度入試説明会など実施予定等詳細は本研究科HPをご確認ください。



試験科目

- 博士後期課程
 - A日程、C日程(一般・社会人・外国人留学生入試)
 - 環境システム学専攻
 - 外国語
 - 英語(辞書使用可)
 - ただし、外国人留学生は外国語試験を実施せず、日本語能力試験および日本留学試験(日本語)の成績で評価
 - 専門
 - 地球環境科学
 - (地圏環境学・気圏環境学・水圏環境学・生物圏環境学)
 - 地球環境情報学の各分野の設問より選択解答
 - 口頭試問
 - 修士論文の内容・入学後の研究計画・その他
 - 地理空間システム学専攻
 - 外国語
 - 英語(辞書使用可)
 - ただし、外国人留学生は外国語試験を実施せず、日本語能力試験および日本留学試験(日本語)の成績で評価
 - 専門
 - 地理学
 - 口頭試問
 - 修士論文の内容・入学後の研究計画・その他
- 博士前期(修士)課程
 - A日程(推薦入試)
 - 環境システム学専攻・地理空間システム学専攻
 - 口頭試問(卒業論文内容・入学後の研究計画・志望分野の専門的知識および英語)
 - A日程、C日程(一般・社会人・外国人留学生入試)
 - 環境システム学専攻
 - 外国語
 - 英語(辞書使用可)
 - ただし、外国人留学生は外国語試験を実施せず、日本語能力試験および日本留学試験(日本語)の成績で評価
 - 専門
 - 地球環境科学
 - (地圏環境学・気圏環境学・水圏環境学・生物圏環境学)
 - 地球環境情報学の各分野の設問より選択解答
 - 口頭試問
 - 卒業論文の内容・入学後の研究計画・その他
 - 地理空間システム学専攻
 - 外国語
 - 英語(辞書使用可)
 - ただし、外国人留学生は外国語試験を実施せず、日本語能力試験および日本留学試験(日本語)の成績で評価
 - 専門
 - 地理学
 - 口頭試問
 - 卒業論文の内容・入学後の研究計画・その他



環境をみる確かな目を養う

環境システム学専攻

Graduate Course in Environment Systems

地域社会への貢献を目指す

地理空間システム学専攻

Graduate Course in Geographical Space Systems

地球環境科学研究科
 Graduate School of Geo-environmental Science
<http://ris-geograduate.jp/>

環境をシステムとしてとらえ、



地球環境科学研究科 研究科長 岡村 治

立正大学地球環境科学研究科は、地球の様々なレベルの主体-環境系を相互に関係をもつシステムとしてとらえる視点を重視して、その実態を科学的に明らかにし、地球や地域の環境問題の解決に貢献できる人材の育成を目指しています。本研究科の2つの専攻の目指すところは同じですが、基礎としている学問や研究手法には違いもあります。地理空間システム学専攻は、地理学を基礎として人文科学を含めた総合的視点で地域の実態をとらえるのに対し、環境システム学専攻は、環境科学を基礎として自然科学的手法で地球環境をとらえます。これらの性格の異なる2つの専攻が1つの研究科を構成している相乗効果によって、地球環境科学の新たな枠組みを作り出すとともに、本研究科の特色を活か

環境システム学専攻

Graduate Course in Environment Systems

人は、大地、大気、水、種々の生物の存在なくしては生存し続けることはできません。人の生存を脅かす環境悪化、環境汚染は今、どのように進行しているのでしょうか。どうすれば防げるのでしょうか。環境システム学専攻の地圏環境、気圏環境、水圏環境、生物圏環境、環境情報の5研究分野は、各専門性を生かしつつ、有機的連携のもとに、創造性があり、かつ社会的ニーズにも応えられる「夢とアイデアのある環境科学者の育成」を目指しています。

博士後期課程 **定員4名**

博士前期(修士)課程 **定員10名**

地圏環境学研究分野

気圏環境学研究分野

水圏環境学研究分野

生物圏環境学研究分野

地球環境情報学研究分野

学位	博士後期課程	博士前期(修士)課程
	博士(理学)	修士(理学)
論文例	<ul style="list-style-type: none"> ・日本海の拡大に伴う関東北縁部マグマ活動の変遷 ・高分解能SARデータによる水田の利用形態の分類および水稲の生育量・収量の推定 ・韓国, Goseong地域の火山岩の実験岩石学 ・富山平野のフェーン発現時にみられる宮川一神通川川筋における地上大気圏の特徴 ・関東平野北西部における夏季猛暑の出現メカニズムに関する研究 ・水田地域を流域とする河川水中の重金類の挙動と負荷源に関する研究 ・被験者実験に基づいた様々な温湿度環境下での温冷感に対するUTCi温熱指標の応答特性に関する研究 ・埼玉県神川町渡瀬および周辺地域における浅層地下水の水質とその形成プロセス ・アンモニア存在下のメタン/ハイドレートの高圧安定性~土星衛星タイタンの内部構造の推定~ ・Sentinel-2を用いた湖沼のクロロフィル濃度分布の推定に関する研究 	<ul style="list-style-type: none"> ・新潟県佐渡島における完新世初頭以降の環境変遷に関する花粉分析学的研究 ・韓国, Goseong地域の火山岩の実験岩石学 ・富山平野のフェーン発現時にみられる宮川一神通川川筋における地上大気圏の特徴 ・関東平野北西部における夏季猛暑の出現メカニズムに関する研究 ・水田地域を流域とする河川水中の重金類の挙動と負荷源に関する研究 ・被験者実験に基づいた様々な温湿度環境下での温冷感に対するUTCi温熱指標の応答特性に関する研究 ・埼玉県神川町渡瀬および周辺地域における浅層地下水の水質とその形成プロセス ・アンモニア存在下のメタン/ハイドレートの高圧安定性~土星衛星タイタンの内部構造の推定~ ・Sentinel-2を用いた湖沼のクロロフィル濃度分布の推定に関する研究
進路	<ul style="list-style-type: none"> 立正大学地球環境科学部 東京学芸大学観光教育実践施設 常盤大学コミュニティ振興学部 独立行政法人国立環境研究所 独立行政法人防災科学技術研究所 一般社団法人電力中央研究所 埼玉県 東和科学株式会社 株式会社北杜地質センター 	<ul style="list-style-type: none"> 立正大学大学院、千葉大学大学院、北海道大学大学院、中国科学院大学大学院、牛久自然観察の森、埼玉県立高校教諭、八洲学園大国際高校教諭、埼玉県立中学校教諭、明日エンジニアリング(株)、アールシーソリューション(株)、(株)エクサ、国際航業(株)、(株)サイサン、(株)高見沢分析化学研究所、(株)西原ネオ、ハイクシステム(株)、東日本旅客鉄道(株)、富士ソフト(株)、(株)ライフビジネスウェザー、(株)土木管理総合試験所、(株)ブラック研究所、(株)バスコ、いであ(株)、川崎地質(株)

多角的な視点から環境を眺める

■環境システム学専攻

開設科目

環境システム学専攻博士後期課程

区分	科目名
A 演習	環境システム学総合演習Ⅲ～Ⅴ
B 特別研究	地圏環境学特別研究Ⅰ～Ⅵ
	気圏環境学特別研究Ⅰ～Ⅵ
	水圏環境学特別研究Ⅰ～Ⅵ
	生物圏環境学特別研究Ⅰ～Ⅵ
	地球環境情報学特別研究Ⅰ～Ⅵ

環境システム学専攻博士前期(修士)課程

区分	科目名	
I 研究科共通科目群	地球環境科学総論 地理空間システム学総論	
A 基幹科目群	1. 生物圏・地圏 研究科目類	陸域生物環境学特論
		水域生物環境学特論
		野生動物管理特論
		地圏環境学特論
		地球惑星物質循環特論
	2. 気圏・水圏 研究科目類	土地環境管理特論
		気圏環境学特論
		熱収支水収支特論
		地球流体環境学特論
		水圏環境学特論
3. 環境情報 研究科目類	地下水システム特論	
	生態系水文循環管理特論	
	環境情報学特論1・2	
	環境リモートセンシング特論1・2	
	ジオインフォマティクス特論	
B 総合研究科目群	地球環境モデリング特論1・2	
	空間情報システム特論1・2	
	地球環境科学総合講義(環境汚染特論1)	
	地球環境科学総合講義(環境汚染特論2)	
	地球環境科学総合講義(環境変動特論1)	
	地球環境科学総合講義(環境変動特論2)	
	地球環境科学総合講義(圏間相互作用特論1)	
	地球環境科学総合講義(圏間相互作用特論2)	
	地球環境科学総合講義(圏間相互作用特論3)	
	地球環境科学総合講義(圏間相互作用特論4)	
C 演習	環境システム学総合演習Ⅰ・Ⅱ	
	地圏環境学演習Ⅰ～Ⅳ	
	気圏環境学演習Ⅰ～Ⅳ	
	水圏環境学演習Ⅰ～Ⅳ	
	生物圏環境学演習Ⅰ～Ⅳ	
D 実験・実習	地球環境情報学演習Ⅰ～Ⅳ	
	地圏環境学実習および実験	
	気圏環境学実習および実験	
	水圏環境学実習および実験	
	生物圏環境学実習および実験	
E 研究	地球環境情報学実習および実験	
	地圏環境学研究Ⅰ・Ⅱ	
	気圏環境学研究Ⅰ・Ⅱ	
	水圏環境学研究Ⅰ・Ⅱ	
	生物圏環境学研究Ⅰ・Ⅱ	
	地球環境情報学研究Ⅰ・Ⅱ	

専任教員(大学院担当)

地圏環境学分野

川野良信教授(学術博士) 地殻環境岩石学 大陸地殻の進化と地球環境の変遷に関する研究
北沢俊幸准教授(博士・理学) 地形学・堆積地質学 河川～沿岸域環境における地形と地層の形成過程
下岡順直准教授(博士・文学) 環境年代学 ルミネッセンス(TL/OSL)法を用いた表層環境変化に関する年代測定

気圏環境学分野

増田耕一教授(理学博士) 気象学・気候学 大気・水圏のエネルギーと水の循環 気候変化と人間社会への影響
渡来 靖教授(博士・理学) 気象学・気候学 局地気象のモデリング・ブロッキング現象の解析的研究
鈴木バーカー明日香講師(Ph.D) 大気環境モデリング 領域気候シミュレーション、気象/気候と健康、熱帯低気圧の気候変動
神澤 望助教(博士・理学) アジアモンスーン地域の季節降水量の振る舞い、気候変動によるその将来変化

水圏環境学分野

河野 忠教授(博士・地理学) 環境地下水学 地下水環境の変化 水資源と水利用
安原正也教授(理学博士) 水質・同位体水文学 地下水水文学 都市の地下水 火山の地下水 深部起源流体(内陸地水・天然炭酸水)
李 盛源准教授(博士・理学) 同位体水文学 地下水に含まれる硝酸性窒素の挙動と浄化
向高 新助教(博士・理学) 大気-植物間の窒素循環解析 水環境中のマイクロプラスチックに関する研究

生物圏環境学分野

岩崎 望教授(農学博士) 海洋生物学 宝石サンゴ類の保全に関する研究
須田知樹教授(博士・農学) 森林生態学・動物生態学 動物の行動が森林生態系に与える影響
米林 伸教授(理学博士) 花粉分析による植生の空間配置の復元に基づく環境変遷史の解明
関根一希講師(博士・理学) 生物多様性・進化生態学 カゲロウ類の単為生殖の進化的意義

地球環境情報学分野

後藤真太郎教授(博士・工学) ジョインフォマティクス 数値流体力学 環境変化シミュレーション
吉田紀彦教授(工学博士) センシング + IoT 分散 AI 次世代インターネット
横山和成特任教授(農学博士) 土壌微生物情報の多様性解析 生態系の安定性と持続性評価
青木和昭講師(博士・情報科学) 環境情報処理 環境情報への機械学習の応用
松本倫子助教(博士・工学) ネットワーク プログラミング 知的エージェント



■地理空間システム学専攻

開設科目

地理空間システム学専攻博士後期課程

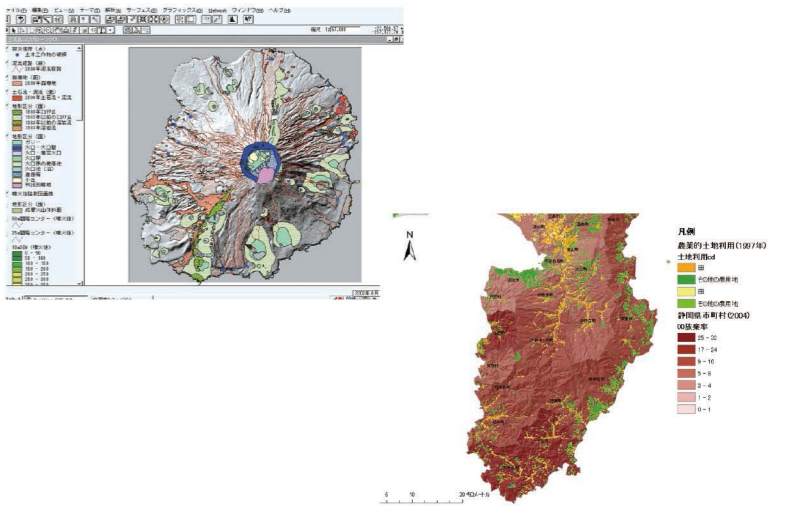
区分	科目名
A 演習	地理空間システム学総合演習Ⅲ～Ⅴ
B 特別研究	人文地理学特別研究Ⅰ～Ⅵ
	自然地理学特別研究Ⅰ～Ⅵ
	地理教育・地理情報科学特別研究Ⅰ～Ⅵ

地理空間システム学専攻博士前期(修士)課程

区分	科目名	
I 研究科共通科目群	地球環境科学総論 地理空間システム学総論	
A 基幹科目群	1. 人文地理学 研究分野	人文地理学特論Ⅰ (歴史・文化・社会)
		人文地理学特論Ⅱ (都市・観光)
		人文地理学特論Ⅲ (経済・流通)
	2. 自然地理学 研究分野	自然地理学特論Ⅰ (地形・自然誌)
		自然地理学特論Ⅱ (水文・気候)
		自然地理学特論Ⅲ (地域環境)
	3. 地理教育 研究分野	地理教育特論Ⅰ (地理教育方法論)
		地理教育特論Ⅱ (環境教育・開発教育)
		地理教育特論Ⅲ (異文化理解教育)
	4. 地理情報科学 研究分野	地理情報科学特論Ⅰ (地理情報システム・地図学)
		地理情報科学特論Ⅱ (環境情報システム・リモートセンシング)
		地理情報科学特論Ⅲ (地理情報科学の理論と実習)
B 総合研究科目群	地理学・地域研究総合講義 地理教育・地理情報科学総合講義 地理空間システム学総合演習Ⅰ・Ⅱ	
C 演習	人文地理学演習Ⅰ～Ⅳ	
	自然地理学演習Ⅰ～Ⅳ	
	地理教育・地理情報科学演習Ⅰ～Ⅳ	
D 野外調査・実地研究	人文地理学野外研究	
	自然地理学野外研究	
	地理教育・地理情報科学実地研究	
E 研究	人文地理学研究Ⅰ・Ⅱ	
	自然地理学研究Ⅰ・Ⅱ	
	地理教育・地理情報科学研究Ⅰ・Ⅱ	

専任教員(大学院担当)

伊藤徹哉教授(博士・理学) 都市地理学 ヨーロッパでの都市再生研究
岡村 治教授(博士・文学) 歴史地理学 主として都市形成史や都市-村落関係 景観変遷史
貝沼恵美教授(博士・理学) 経済発展の地理学 アジア地域研究 異文化理解
片柳 勉教授(博士・地理学) 都市地理学 都市の形成・変容論 歴史的環境の保全とその課題
小松陽介教授(博士・理学) 山地の水文地形学 洪水流量の予測 GISを用いた地形計測
島津 弘教授(博士・理学) 自然地理学・地形学 山地の発達 河川の土砂移動に関する研究
鈴木厚志教授(博士・文学) 地理情報科学・地図学 空間データの視覚化に関する研究
原美登准教授(博士・地理学) 水文学・自然地理学 人間活動を考慮した水収支研究
吉田国光准教授(博士・理学) 社会地理学 二次的自然の持続的利用を可能とする社会仕組みに関する研究
深瀬浩三特任准教授(博士・学術) 経済地理学・農業地理学・地理教育 農業や工業の産地の存続戦略に関する研究
山田淳一講師(博士・地理学) 交通地理学 港湾機能の変化と地域変容に関する研究
横山貴史特任講師(博士・理学) 漁業地理学 水産資源の利用・管理と漁業地域の持続性
金 延景助教(博士・理学) 人文地理学・エスニック地理学 エスニックタウンの形成・変容メカニズムと多文化共生



名誉教授

内山幸久	農業地理学	中川清隆	気象学・気候学
大塚昌利	工業地理学・地域論	福岡義隆	環境気象学
澤田裕之	農業地理学	松井秀郎	人口地理学・地理教育
鈴木裕一	水文科学・地下水学	吉岡 茂	環境情報学
高村弘毅	自然地理学・地下水学		

充実のサポート体制

<h3>研究支援奨学金</h3> <p>(立正大学大学院研究科別奨学金制度)</p> <p>本研究科において、1年以上の研究歴を有する博士前期2年生・博士後期課程在学中の院生を対象に、研究実績に裏打ちされた研究計画の遂行を支援することを目的として、2019年度より給付型奨学金を設けました。</p>	<h3>論文投稿等助成制度</h3> <p>本研究科博士前期・後期課程在学中に投稿し、在学中ないし修了・退学後3年以内に論文が公開された方に対して、投稿費用等の一部の助成を行っています。</p>	<h3>学会発表交通費補助</h3> <p>本研究科博士前期・後期課程在学中の大学院生を対象に、学会発表に伴う交通費の補助を行っています。</p>	<h3>院生の研究スペース</h3> <p>大学院生が研究活動のために利用できる院生室があり、コンピュータや実験設備、GIS環境なども整備されています。</p>
---	---	---	--

就職支援

地球環境科学研究科は、立正大学キャリアサポートセンターとの連携により、大学院生に対する積極的な就職支援を行うとともに、研究科独自でもキャリアパスに関する講演会等を実施しています。キャリアサポートセンターでは、最新の求人情報の提供・OBやOGによるアドバイス・リターン情報の提供・各種就職関連資料や問題集等の閲覧と貸し出しを通常の業務としていますが、このほか進路や資格・免許に対する個別相談業務も行われています。大学院生の修了単位への認定はできませんが、キャリアサポートセンターの開設する「インターシップ」などの科目の受講は可能です。このような科目以外にも、公務員試験対策講座や教員採用試験対策講座が開設されています。



ウッドデッキプラザ



アカデミックキューブ(19号館)



熊谷キャンパス



実験・研究棟(3号館)



個室型学生寮—ユニデンソ